

一日教育委員会（教育懇談会）意見交換記録（要旨）

□日時	平成29年8月23日（水）	13:30~15:30
□場所	蕪崎市文化ホール	
□出席者	121人	
	（内訳）PTA関係者	95人
	市町村教育委員会関係者	21人
	一般	3人

テーマ1 学校と家庭及び地域の連携について

1 学校・家庭・地域の連携について

（質問・意見）

・PTA活動の中で、親子の体験活動を取り入れ、地元の櫛形山への親子登山や、親子ケーキ作りなどを行い、普段の子供と親の関係を別の視点から見られる大変良い機会が得られている。その活動が大きな輪になって、先生方とも良い関係が作れており、親が参加しやすい組織になっている。

→守屋教育長

・教育は地域、家庭、学校でやるということで、地域の方々の意見が大切。今のご意見は大変ありがたい。山梨県では押原小学校などがやり始めているコミュニティスクールのように、地域で学校を育てていくという動きも広がっている。

2 子どもの学力について

（質問・意見）

・今、児童生徒の学力の低下が課題の一つになっている。その中で授業時数がなかなか確保できないというような場面で、放課後や土日の学習など、対策は色々あると思うが、実際には、教室が使えないとか、地域の方が教育に関わろうと思ってもなかなかハードルがあって、それを超えられない状態。それに対する何か対策があるか伺いたい。

→守屋教育長

・県内の取り組み例を挙げると、土曜日を使って勉強をする、教員のOBの方をお願いする、それから放課後子供教室の実施など、色々な取り組みが県内各地で広がっている。県の教育委員会は、市町村の教育委員会の取り組みについて、必要性や運営の方法等を見ながら、必要に応じて財政支援や技術的な支援を行うという立場。

・他の自治体でも様々な取り組みが進められており、先進的な事例がかなり出てきている。県も情報提供できるし、市町村教育委員会へ情報提供の働きかけもして参りたい。

→教育監

・学校によっては、読み聞かせのボランティアで保護者の方に入ってもらい、家庭科の授業のような作業がある時に、地域のお母さん方に一緒に手伝ってもらいというような取組をしている学校もある。様々な工夫をする中で、保護者の方や地域の方にお手伝いしてもらえることは可能と思っている。

3 学習ボランティア・英語教育について

(質問・意見)

(学習ボランティアについて)

・地域の書道の先生や、英語の先生等、得意な分野を生かして学校の先生を助けるというボランティアや地域のパトロールなどのボランティアをしている。私は英語講師をしているので、そちらのボランティア員になっている。

(英語教育について)

・2020年から学習指導要領が大きく変わって、小学校の英語教育も大きく変わると思う。2020年の大きく変わる教育に関して、例えば誰が教えるのか、いつ教えるのか、英語を指導する人の確保というのはできているのか。それはALTなのか、地域の人なのか、もしくは小学校の先生が教えるのか。山梨県の今の英語教育の現状について伺いたい。

→義務教育課長

・県では、県内5地域32校の小中高等学校を研究指定校とする「外国語活動教科地域拠点事業」に取り組んでいる。この事業を通して先生方の英語に対する不安をなくしていきたいと考えている。特に小学校においては、担任が、技術的なことよりもコミュニケーションの素地となる、好きな食べ物を紹介したり、好きな色を紹介し合うようなことから始めるということになっている。県の研修体制としては、技術よりも、この英語活動、外国語活動や英語科の小学校における教育の目的をしっかりと理解してもらうこと、そして担任の先生が、つたない発音であっても、勇気を持ってやるのが子供達のコミュニケーションの素地になるというようなことを伝えている。ただ、ALTを含めて地域の英語に特化した方が学校に加わってくださることは大歓迎で、ぜひ地域を挙げて英語教育の充実、円滑な導入にご協力いただけたらありがたい。

4 専科指導について

(質問・意見)

・中学高校は教科担任で教科指導をやっているが、小学校も英語が導入されたところであるが英語、算数、理科など、専科の指導のようなことは小学校でも導入できないか。

→義務教育課長

・先ほど申し上げた「外国語活動強化地域拠点事業」の中では、担任がやることは基本だが、英語専科のような形で導入している地域も試験的に入れている。そういうパターンと、英語が得意な先生がいくつかの学校を回りながら、技術を伝承する形と、どちらが有効かということで、今、研究を進めている。専科が有効だからといって人件費等の課題もあるので、すぐに導入は図れないが、本県としては一番有効な方法を考えていきたいということで、専科も視野に入れた研究は進めているところ。

(質問・意見)

・例えば1学年4クラスあるような大規模校の中には、それぞれ得意な教科が違う先生方が、先生同士で相談なさって、じゃあ社会をこの学年を教えようとか、理科は私が教えようとかという取り組みをしている学校もある。できれば、そんなことができればいいのかなと思うがいかがか。

→守屋教育長

・今、全国的には小学校と中学校を一緒にするとか、中学校と高校を一緒にするという動きがある。山梨県は、今のところ連携はしているが、一緒にする動きはない。例えば、中学校の先生が小学校との交流によって、理科や英語や体育など、専科の先生が専門的な教え方を見せてあげるなどの交流をしているのかなと思う。ただ、少し難しい問題もある。今後、教員の大量退職、大量採用の影響もあり、教員の確保が大変になってくる中、小学校と中学校の両方の資格を持っているというような条件を付けてしまうと、志願者が山梨に来なくなっても困る。

・山梨県においても、今できる制度の中で、小中学校の枠を超えた人事交流等、柔軟にできるような考え方を持って対応して参りたい。

5 支援を必要とする子供達への対応、地域の教育力等について

(質問・意見)

・今、貧困の家庭が、全体6分の1を占めているという調査結果もある中で、そのような家庭では教育力がなかなか期待できないのではないかと。

・それから、発達の障害を持っている児童が入学するようなケースもあるが、この場合の保育と小学校との連携がうまくいっているのか伺いたい。

・また、歩ける範囲にある小学校は、地域の集まりの場所だったが、学校の統廃合により地域の集まる場所が無くなり、コミュニティが無くなってしまった。

→和田教育委員

・家庭学習の件で、親が子供の帰る時間には帰っていないとか、生活に追われていて子供の学習は見られない家庭も実際にあり、そのような場合には、各市町村教育委員会でも対応については考えていると思う。学校ごとに教員のOBの方たちをお願いして放課後児童クラブみたいな形でやっていたり、子供達の宿題をするのを指導員さんが見ているような場所もある。

・それから発達障害については、幼保小の連携によって、できるだけ保育園や幼稚園から対象となる子供達の情報を上げてもらい、新入学してくる子供達について、学校側と保育園や幼稚園側と情報交換をしながら、対応方法についての相談や話し合いをしている。

・また、必要に応じて、通常学級で勉強するのは難しい場合には、入学前に親御さんにも来ていただいたり、子供さんを見ながら特別支援学級への入級を進めるような場合もある。そのように対応している教育委員会も多いと思う。

・他にも、学級の中でうまく適応できない、発達障害もあるという子もいると思うが、学校サポーターという特別教育支援員というような名前で、市町村教育委員会が教員を派遣している所もあるのではないかと。

・今、それらの問題についてどう対応していくかということはとても大事なことで、市町村教育委員会でもこれからも対応していかなければならないと思う。例えば検査をする場合には、県の総合教育センターというのがあり、市町村の3歳児健診、5歳児健診の時に保健師さんが教育委員会と連携する仕組みができている市町村もある。

→守屋教育長

・発達障害について、県でも具体的な案件の中で議論している。発達だけでなく、障害に応じてどういう教育を受けていただくのが良いか、本人の意思や家庭の状況、通学のし易さなど、ケースバイケー

スで様々な対応をしている。私達は、本人が良いと言えればそれを優先し、対応できるよう取り組んでいるところ。

・「コミュニティスクール」というのがあって、地域の学校をどのようにして盛り立てていくか。やはり、地域があって学校がある、あるいは学校を利用してもらって、地域でもう一度コミュニケーションを取れるようにみんなで頑張っていたきたい。

テーマ2 児童生徒の体力の向上について

1 スクールバスの運行による子供の体力の低下について

(質問・意見)

・長坂小学校は4つの小学校が統合して、地域の方々からよく言われるのがスクールバスで登校することで、子供達の体力が低下したり、我慢する力が弱くなっているのではないかという心配の声がある。昔は歩きの登下校班の中で身体を鍛えられたり、上級生のリーダーシップが育成されたり、自然や環境に興味を持ったり、様々なことがあった。親として特に子供達の体力の低下に繋がらないようにしてほしいと思っている。

→武者教育委員

・私の住んでいる大月市も、統廃合でスクールバスで通っている子供達を多く見かける。大人も、昔に比べると車で移動している。社会的に危ないということもあつたりするので、安全面を考えると仕方がないが、私も同じような危惧をしている。

・また、スクールバスの時間が授業の直後だったりするので、放課後も遊べないということもある。

・スクールバスで帰宅した後も、地域に子供が少ないので、また一人で遊ぶという感じになっている。近所の子と色々な年代で遊ぶということが本当に少なくなっていると危惧している。私の子供達が通っていた小学校では、意識して学校にいる間に、各クラスで何歩歩いたとか、富士山を模型にしてどのぐらい歩いたかクラスで競ったり、あるいは家に帰った後、近くでどのぐらい歩いたというのを競わせて、体力を少し上げたという取り組みをしていた。

・この運動不足は、大人が意識して、「一緒に歩くよ、親もやるよ」ということがないと、体力だけでなく根気力も低下してしまう。雨が降っても、雪が降っても、寒くても外で歩くというようなことを当たり前にしていかなないと、大人になった時に根気強く物事に取り組むということが難しいのではないかと思っている。

→三塚教育委員

・統廃合によってスクールバスでの登下校に代わることは仕方ないことだと思っているけれども、その環境の中で体力を向上させるためにどうするかということ。僕自身は医療関係の仕事をしている中で、健康教育の中で生活習慣を改めるように話している。今の親御さんは共働きで、なかなか平日は子供の面倒が見られない状況の中、土曜日とか日曜日にできるだけ時間を作って、生活習慣の中に、子供と一緒に遊ぶ、外に出て遊ぶという習慣を組み入れるということが必要だと思っている。体力に関してもこれは全く同じことで、親が自ら休みの土曜日にもし時間があるなら、必ず子供と一緒に外に出て遊ぶという生活習慣を必ず付けるということ。これは一番大切なことだと思っている。時間はかかるかもしれないけれど、体力向上には繋がってくると思っている。

→飯室教育委員

・運動習慣の定着というのは大事。韮崎はサッカーが強くて、サッカーを皆さん昔からやっている。一流のスポーツを観戦することで、今度は自分が運動するスタートが切れると思う。今年は高校野球の県大会で、高野連が外野席を3日間、無料で開放した。すると2千人の親子が見に来てくれて、そうやって高校野球を見ることで、また自分達も野球をやりたいとか、運動したいとか、そういうことが一歩一歩前に進むと思う。山梨は、クインビーズなんかもあるので、そういう大会がある時には、子供達にゲームを見せてあげると、一歩一歩体力向上の推進に繋がると思う。

2 運動習慣の定着について

(質問・意見)

・うちは男の子が3人いて、同じ環境、家庭で育っているが、真ん中の子だけ非常に運動が好き。それは友達も含めてで、その学年は昔から外で遊ぶ学年。友達も含めて、そういう環境というのは非常に大事と思う。

・それから、失敗したのが、三男にはもうゲームを与えてしまったこと。なるべく与えないようにしていたが、与えてしまったら、どっぷりはまってしまい、出かけるというとゲームを持って出かける。せっかくの土日を私たちも休みたいが、子供を連れてそのような時間を与えてあげないと、今の子供達は、なかなか外で遊ぶ機会がないのかなと思う。私は、ゲームは前面否定派で、時代ということもあると思うけれども、やはり子供達がゲームやスマホに触れる時期は、できるだけ遅くした方が良いと考えている。

→守屋教育長

・経済誌を見ていたら、ゲームは完全に駄目かというところでもないという意見があり、適切な時間やるのであれば、例えばロールプレイングゲームはシミュレーションをして組み立てをするという力になるということを言っている学者さんがいる。例えば昔ならば子供のコミュニケーションが取れてみんな遊ぶとか、あるいは子供クラブとか、外で普通に遊べるような機会があったが、今はなくなっている。子供達の関心が外に向くようなことが、なければ家庭で見つけるとか、学校、地域で見つけることを考えないといけない。

→武者教育委員

・この運動できる環境というのも親御さん次第だったりするということもある。親御さんが土日に一生懸命やってあげる、スポーツ少年団の送り迎えをしてあげるという親御さんと、どうしても土日も仕事があって関われないという家庭だと、子供が遠慮して、「じゃあ、いいや」となってしまう。私が子供の頃のように、外に行けば小学校の校庭に誰かいるという環境を大人が意識して作ることができたらいいのかなと思う。

・もう1つ体力ということで、運動ということにいきがちだが、栄養がないと動けない。私の外来に、陸上部の子が、全然タイムが伸びないと言って来る。診ると、ものすごくひどい貧血だったりすることがある。また、小学校のお子さんを持つお母さん達が、「うちの子供は、大人以上に疲れた、疲れた」と言う。幼稚園、保育園の子供が、甘いものを食べて横になってばかりいる。飽食の時代と言われて久しいが、実際に今は昔よりも好きなものを好きなだけ食べる。あるいは食べないでいられるという食生

活になりがちで、実際に子供達を採血してみると、ものすごく栄養不足だったりする。なぜかと言うと、炭水化物、お菓子、ジュース、こういったもので空腹を満たしてしまっ、体に必要なたんぱく質とか、脳に大事だと言われているビタミンB、鉄分をはじめとしたミネラルが絶対的に不足している。これでは根気も続かない、すぐに疲れてしまうし、キレやすい子供になってしまう。外に連れ出しても、そんなおさんはもうへとへとに疲れて、「もう外嫌だ」となってしまう。

・やはり体力という時には、運動と共に、実は必要な栄養が、ともすると、昭和の時よりも摂れていないということをちょっと頭に入れておかれるといいかと思う。実際に外来では本当に子供達が栄養失調になっている。栄養失調と言うと強烈だが、必要な栄養が摂れていないお子さん達をよく見かける。

（質問・意見）

・地区のスポーツ少年団の指導者を数10年、今現在もやらせていただいている。昔の、10数年前の子供達と、今、チームにいる子供達を比べてみると、基礎的な体力の部分等に関して、やはり落ちているのかなと感じている。

・女子の中でも非常に運動神経のいい子も入団してくることがあり、そういう子たちと話してみると、外で遊んでいるとか男子と遊んでいるケースが多い。基礎体力並びに瞬発力、俊敏性が優れている子たちに何人か出会ったことがある。すぐに結果が出るわけではないが、入団して卒団する頃には、最初に入ってきた時よりも数段運動神経が良くなった、体力向上したという形で父兄とも話ができる子供も何人かいる。子供達はやりたいけれど、父兄の方々が土日忙しいので遠慮させてほしいというお話も受ける。そういう点が少しずつ改善してくれば、子供達の体力も今後向上していくのではないかと思う。

テーマ3 子供同士の望ましい人間関係づくりについて

1 子供同士のコミュニケーションについて

（質問・意見）

・ゲームの普及により子供達の1人時間が増えた。1人時間が増えると言語能力が下がる、コミュニケーション不足が始まる、学校へ行って友達とけんかしても、言葉が出てこなくて暴力で終わってしまい、それがいじめの対象になったり、不登校になったりする。

・子供も少ない、家に帰れば親も仕事でいない、地域の行事も少ない中で、コミュニケーション、人間関係を作るという場が少ないと思う。この場を、家庭もPTAもどのように作っていくか考えるし、学校も友達とコミュニケーションを取る、チームワークで何かやるという機会を増やしてほしい。家庭でも、外へできるだけ連れ出して友達と遊ぶ機会を作るということがこれから大事になってくる。学校でもそのようなことを考えていただけたらありがたい。

（質問・意見）

・今の子供達は、スマホなど文字のやりとりだけで、顔を合わせて話をするという機会がすごく少ないと思う。小学生、中学生の時に、そういうものがよくななどを教育の中でもっと議論したら良いのではないか。保護者もだけれども、世の中がそういう仕組みを作っていくことが必要ではないか。

→三塚教育委員

・今はこういう時代で、子供達はスマホを使う時代になっているから、それについてやめなさいという

のは、とても無理だと思っている。問題は、児童同士のコミュニケーションを取る前に、親と子供とコミュニケーションをしっかりと取らなければいけないということ。お母様、お父様が、例えばスマホに夢中になっていて、子供ともあまり話す機会がない、親が本を読まない。したがって、親もスマホ等で情報を得るという、そのような親御さんが非常に多くなっていると思う。まず子供に親が直接向かい合って話をする。そして、親が子供と一緒に本を読むとか、子供と親とのコミュニケーションをしっかりと取ることが基本だと思う。

・児童同士のコミュニケーションというのは、そこから波及していくものだと思っているので、まず親御さん達が、子供と面と向かって話し、子供と一緒に本を読むとかいう機会を作ることが一番基本的なことではないかと思っている。そこから子供同士のコミュニケーションは必ず取れてくると僕は確信している。

→守屋教育長

・今は両親とも当たり前のように働いている時代で、親とのコミュニケーションも薄くなりがち。親と子のコミュニケーションというのが、社会に出ていく過程でコミュニケーションを取る訓練に繋がるような家庭の在り方が必要。学校でも、生徒同士や目上の者と目下の者のコミュニケーションの取り方というのを、先生方は意識していると思う。家庭でのコミュニケーションを増やせば、それが社会に出た時の素地になる。ぜひ家庭でもそのような取り組みをお願いしたい。

・また、スマホについてはA I、I C Tが当たり前のように使われる時代がもう来ているので、どのように活用していくのかを考える必要がある。社会に出た時、I C Tが使えないと相当出遅れてしまう。だからこそスマホ、タブレットの適切な使い方を、学校教育の中で身に付ける必要があると思っている。

→義務教育課長

・文部科学省では学習指導要領というものを定め、概ね向こう 10 年の教育の内容や方向性を示している。今までは、何を学ぶかということが中心になって書かれていたが、今回 2020 年の改定に向けては、何を学ぶかと共に、「どのように学ぶか」という視点が加わっている。このどのように学ぶかということは、「主体的で対話的で深い学び」というものを基本の方向としている。主体的というのは、与えられた学習ではなく、自分から求める学習。対話的というのは、グループディスカッションやペアワークのような形で、お互いの意見を出しながらコミュニケーションを基本として学ぶ学習が求められている。これらを基本にしているので、これからの学びはコミュニケーションや相手の気持ちを考えながら、あるいは自分の気持ちを伝え、どう伝えたらいいかということを考えていくこととされているので、そのような方向の中で教育が変わっていくと考えている。

2 親と子の関係について

(質問・意見)

→和田教育委員

・私は、今、教育相談室というところで、不登校の子供達の支援を行っている。不登校の相談に親御さんと来た時に、私が色々質問すると、子供が答える前に親が全て答えてしまい、子供自身の頭で考えて答えるということが今まで本当にあったのかなというような子もいる。自分の考えが主張できない。考えているうちに隣の親がしゃべってしまう。小さい頃から、自分で考えて子供が答えを出すのを待ってあげられなかったのかな、と思うこともあった。やはり、自分で考えて、自分の考えが言えるということとはとても大事。そして、それは小さい頃から親子関係の中で培われてくるものだなと思う。なかなか

自分で決められない、自己決定ができないという子供達も多い。小さい時からどんな簡単なことでも良いと思う。服を選ぶことからでも良いので、自己決定をさせるという力を小さい時から付けるということはとても大事なことです。

・それからとっても大事に育てられ、自分の思い通りになってきてしまった子供もいる。すると相手がこう言ったらどう思うかなというのがなかなか考えられない。私たちは大人なので我慢できるところもあるけれど、子供同士がそのような関係になった時に、相手の子は引いてしまう場合もある。相手の気持ちを思いやるということを、小さい時から親子の関係の中でも育んでいかないと、お友達とうまくいくというのは難しいかなと感じている。

→教育監

・今、教員の多忙化というのが言われていて、そもそもは教員が子供と向き合う時間を確保していくべきだということから始まっている。そこで本県では、今年度から月に1回、各学校で「絆の日」というのを設定して、その日は放課後に色々な活動をしなくて、子供と教師の絆を深めることをしていきましょうということ、それは子供と教師だけではなくて、子供と子供の絆を深めるということにも使えると思っている。今年からスタートしていて、来年以降、月2回とかに増やしていきたいと考えている。これは継続して取り組んでいこうと思っている取り組みなので、今後、大いに活用していきたい。

→守屋教育長

・多忙化の話で、PTAの方が多いのでお願いしたい。私ども教育委員会では週に1回、部活の休養日というものを設けてくださいとお願いをしている。部活の休みの日を使って、部活以外のコミュニケーションを取るように、子供達同士で遊んでもいいし、勉強してもいい。これらの取り組みが教員の多忙化解消にも繋がって、家庭でも家族で過ごす時間を増やせるような機会にもなるし、ぜひ皆さまにご理解をいただければ大変ありがたい。